

公文書レポート①
県営八木山球場
誕生秘話

公文書レポート②
知ってほしい、
宮城県の隠れた
得意競技！

知っ得！情報

◇大日本国民体操図解(部分)◇
【S14-0043】学事経費
体力章測定二関スル経費書類

大日本国民体操は、国民の体力向上・精神の作興を目的に当時の厚生省が制定した体操です。この体操は一般国民向けに創案されたもので、この他にもう2つ、「大日本青年体操」と「大日本女子青年体操」があります。大日本国民体操は多くの人が実施出来るよう複雑な動きを避け、生活に必要な動きを多く取り入れています。「緊張・弛緩・敏捷性を修練するに要する材料を適度に加へた」との記述もあります。図解を見ると、現在のラジオ体操に通じる動きも見えます。実はこの体操が幻の「ラジオ体操第三」なのです。

【 】は、当館所蔵資料の整理番号を表しています。

県営八木山球場誕生秘話

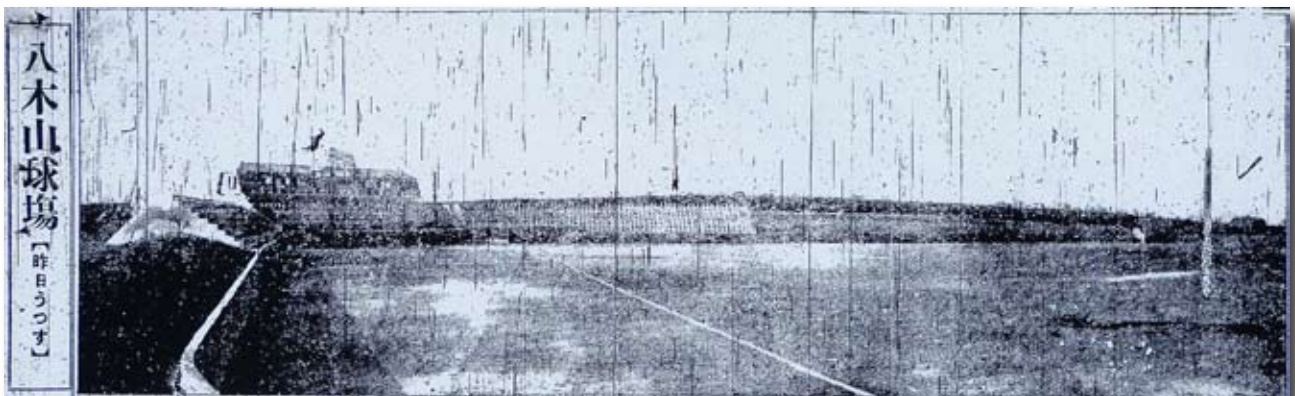
専門調査員 岡安 儀之

◇「東洋一」の県営八木山球場？◇

今シーズン、メディアは連日のようにメジャーリーグベースボール（MLB）、ロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手の健闘ぶりを取り上げました。投打に及ぶ大谷選手の活躍は、ベースボールの歴史に偉大な足跡を残し、「野球の神様」の異名を持つベーブ・ルースとよく比較されています。このルースの名前を聞くと、真っ先に八木山動物公園にあるベーブ・ルース像を思い浮かべる方もいらっしゃると思います。

今から90年近く前の昭和9年（1934）、太平洋を船で渡りMLB選抜チームが訪日し、11月2日から12月1日にかけて日本選抜チームと各地で対戦しています。試合の結果は、日本の16戦全敗。さんざんな結果となりましたが、11月20日、静岡県草薙球場で行われた第10戦で、当時まだ17歳だった沢村栄治が、ルースやルー・ゲーリック、ジミー・フォックスらスター選手を擁するMLB選抜チームを相手に8回を投げて9奪三振を奪い、1失点に抑える伝説的な投球をしたのは、この時のお話です。

11月9日の第4戦は、仙台の八木山球場で行われました。日本の先発は、名古屋鉄道局の武田可一。ルースは、この都市対抗野球準優勝投手から2本のホームランを打つ活躍をし、試合は7対0でMLB選抜チームの勝利に終わりました。八木山動物公園のルース像は、同地にあった八木山球場で、この日ルースが来日初ホームランを打った記念として設置されたものであるとともに、今はなき八木山球場の記念碑といってもよいでしょう。しかし、そもそも当時「東洋一」ともいわれる規模を誇ったこの球場（中堅約120m・両翼約100m）は、どのような経緯で八木山の地に建設されたのでしょうか。本レポートでは、公文書館に残る史料から、その歴史の一端をひもといてみたいと思います。

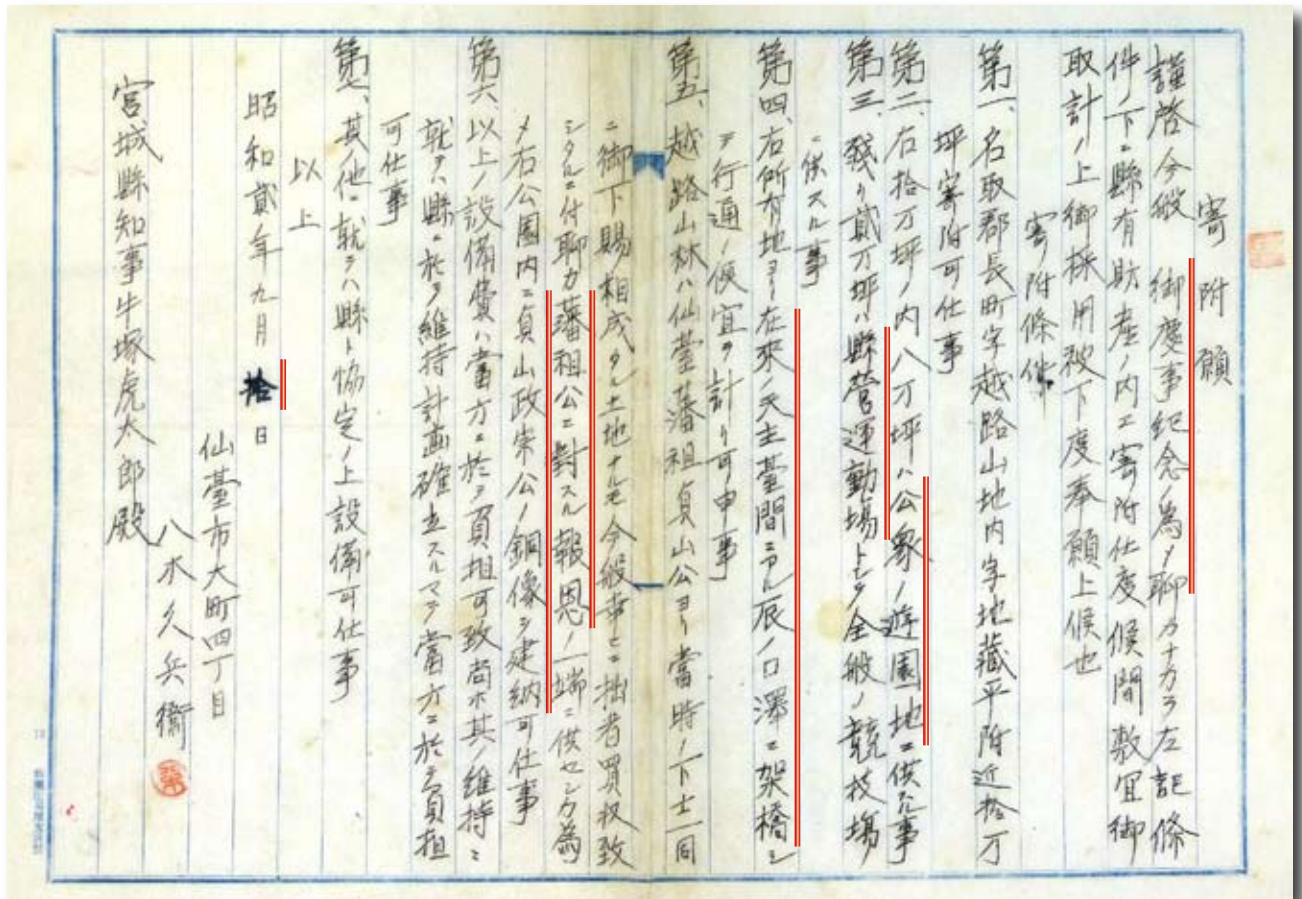


八木山球場の完成を伝える新聞記事（『河北新報』昭和4年6月12日）

◇八木久兵衛の「寄附願」◇

八木山の開発は、もともと仙台城下の大町で化粧品などを商う小間物商・紅久の4代目八木久兵衛（1849-1923）によって進められました。明治になり、味噌や醤油を製造

する醸造業へ進出した久兵衛は、仙台有数の資産家となります。彼は、当時旧仙台藩士の共有財産となり、財政難から荒廃の進んでいた越路山（現在の八木山）の開発を計画します。4代目が亡くなった翌年の大正13年（1924）、その思いを引き継いだ5代目久兵衛（1865-1940）が、越路山を買収。巨額の私財を投じた総合開発が実施されました。八木山球場は、その一環として建設されたわけですが、久兵衛は計画当初から購入した10万坪の土地や関連施設を県に無償譲渡するつもりであったことが、公文書館に残る宮城県知事牛塚虎太郎宛の「寄附願」（昭和2年9月10日）からわかります。



八木久兵衛「宮城県知事牛塚虎太郎宛 寄附願」

（「学事 学雑 八木山運動場及び遊園地寄附関係（2～4年）」【S4 - 18】）

久兵衛はこの「寄附願」の中で、「公衆ノ遊園地」や「県営運動場」、「天主台」（仙台城跡）から八木山を結ぶ竜ノ口沢への橋の建設（のちの八木山橋）にふれています。現在の八木山の基盤となっているものが、この計画の中で作られたことがわかります。しかし、久兵衛がこの「寄附願」にこめた思いは、それだけではありません。もともと越路山は、藩祖伊達政宗公が藩士に与えた土地。これを私は買収したが、藩祖の恩に報いるため、同地建設予定の公園内に政宗公の銅像を作ると述べています。ここには、度重なる苦勞の末に、この土地の買収を成功させた久兵衛の旧仙台藩士への気遣いが垣間見えます。

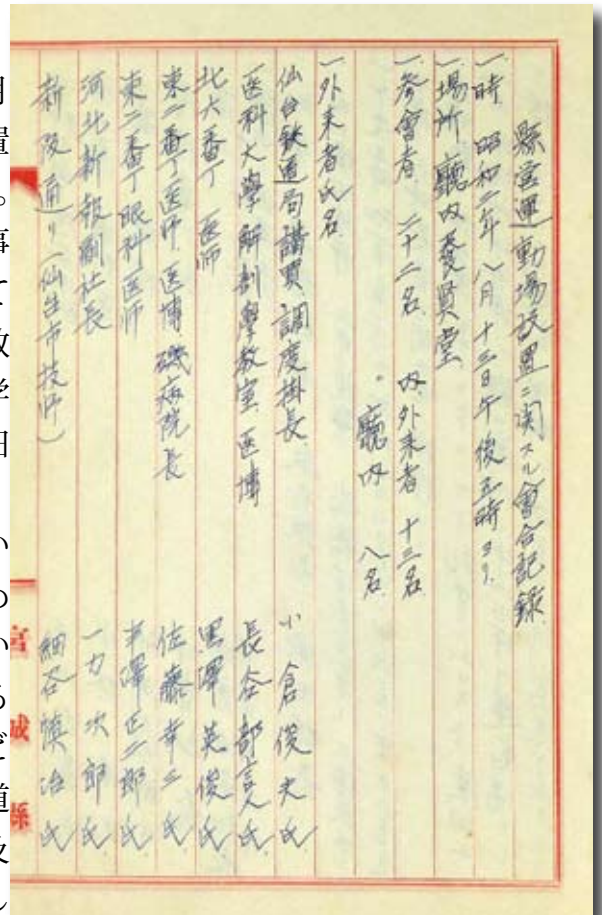
また、県において設備維持の体制が整うまで、計画にかかる費用を負担すると久兵衛は述べているわけですが、この寄付を「御慶事紀念ノ為メ」としている点も大きな意味があるように思います。この慶事とは、昭和天皇の第二皇女・久宮祐子内親王（1927-1928）が、昭和2年（1927）9月10日に誕生したことをさしています。知事宛に提出された「寄附願」

の日付は9月10日となっていますが、10を表す「拾」の文字は明らかに他の文字より太く、あとから書き加えられたように見えます。作成日をあえて内親王誕生の日にし、寄付をこの「紀念」とすることで、4代目から引き継いだ八木山開発計画を円満に進めていこうとしたのでしょう。久兵衛なりの政治的配慮といえるのかもしれませんが。

◇市内有志招待懇談会◇

実は、久兵衛による「寄附願」提出の約一ヶ月前、当時県庁内にあった養賢堂で県営運動場設置に関する市内有志招待懇談会が行われています。8月13日午後5時に開始された会合には、知事である牛塚によって招待された22名が参加しています。出席者には、県から知事・学務部長・教育課長ほか、外部から長谷部言人（東北帝国大学教授）・一力次郎（河北新報副社長）・神門久太郎（旧制第二高等学校教授）らが名前を連ねています。

懇談会は、久兵衛から寄付される運動場について、スポーツに理解のある参加者から意見を求める形で進められています。運動場の管理維持にかかる多額の費用を心配しながらも、予定している陸上競技場・野球場・庭球場以外も設置してはどうかという議論もしています。具体的には、弓道場・相撲場・スキー場などの建設について話が及んでおり、利用者の増加を見込める施設を吟味して設置しようとする意図がうかがえます。



「県営運動場設置二関スル会合記録」

[S4 - 18]

◇「すべて八木久兵衛氏独力の事業である」◇

当時の『河北新報』の記事によると、工期1年10か月、費用12万円、人夫延べ3万6千余人をかけて、昭和4年（1929）6月10日に八木山球場は完成しています。23日には入場無料で球場開きが行われ、同日のうちに球場は宮城県に寄付されています。翌日の紙面には、「三田東京両倶楽部を呼び 八木山球場譲渡式 きのふ同球場に挙行さる 観衆二万に余る盛況」と見出しを付け、賑わう球場の様態を伝えています。また当日は、前年開局したばかりの日本放送協会仙台放送局も、ファンの熱意に応え「犠牲的援助」で試合のラジオ中継を初めて行っています。球場内外での熱狂ぶりが目に浮かびます。

「県市民の運動を鼓吹し体力増進を図る」一施設として建設された県営八木山球場は、完成から2年後八木家へ返還、さらに仙台市へ寄贈（昭和11年申入れ採択）、その役割を終え、跡地は昭和40年（1965）に現在の八木山動物公園のアフリカ園になっています。交通に不便な高所にあったことが、球場として使用されなくなった理由だといわれています。現在八木山球場の記憶を持つ人は少なくなりましたが、事業で得た利益を地域に還元して社会貢献に尽力した久兵衛の功績は、今も輝きを失うものではありません。

知ってほしい、宮城県の隠れた得意競技！

専門調査員 荒川 理佐

◇花形競技の影に隠れて◇

今年（令和3年）は昨年に開催予定だった東京オリンピックが1年延期の末に開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大という難しい状況下での大会でしたが、選手の皆さんが全力を尽くして競技に臨む姿をテレビで見た方もいるかと思います。今回はそんなオリンピックに関連して、宮城県が実は得意としている競技と、それに関わる公文書をご紹介します。

その競技は……「射撃」です。皆さんは今回のオリンピックで射撃をテレビでご覧になりましたか？ 見ていませんか？ いつやっていたかわからないですか？ それもそのはず、射撃はテレビで放送されなかったのです。そのような意味ではマイナーな競技ではありますが、日本は過去にオリンピックで金メダルを取ったこともあります。そして宮城県は隠れた射撃強豪県なのです。

宮城県は県立の射撃場を2つ持っています。1つは石巻市にあるライフル射撃場、もう1つは柴田郡村田町にあるクレー射撃場です。

ライフル射撃とクレー射撃は何が違うのでしょうか。使用する銃の違いもありますが、大きな違いは「的が動くかどうか」です。ライフル射撃は固定された的の中心を狙い精密射撃で高得点を目指す競技で、クレー射撃は動く的を打ち落とすことで得点を獲得する競技です。

今回はこの2つのうち、宮城県がライフル射撃場を新築した際の公文書「教（県）第31—1号（主）宮城県ライフル射撃場S B棟建設工事 昭和57年度 1冊のうち1号」【S57—254】および「教（県）31—2号（主）宮城県ライフル射撃場A R棟建設工事 教（県）第31号（電）（衛）宮城県ライフル射撃場SB棟建設工事 教（県）第31—3号宮城県ライフル射撃場管理棟建設工事 昭和57年度 1冊のうち1号」【S57—259】をご紹介します。

◇ライフル射撃場誕生、その全容◇

昭和57年（1982）8月に開館したこの射撃場は、昭和56年度から建設が始まりました。開館後は屋内スポーツレクリエーション施設として活用され、平成13年（2001）の第56回国体・みやぎ国体ではライフル射撃の会場として使われました。東日本大震災では津波の被害を免れ、建物の破損こそありましたが5月1日から利用が再開されました。

【S57—254】と【S57—259】の工事写真帳や完成届を見ると、SB棟とAR棟は昭和57年の3月18日に着工、管理棟は5月13日に着工し、いずれも8月10日に竣工しています。SB棟の「SB」とはスモールボアライフル、AR棟の「AR」はエアライフルのことを指します。

スモールボアライフルとは火薬で弾を撃ち出す銃で、50 m先の標的を狙う種目で使用されます。エアライフルは「エアガン」と呼ばれる誰でも購入可能な玩具とは異なります。エアライフルには圧縮した空気等の力で実際に金属の弾を撃ち出す力があり、10m先の標的を狙う種目に使います。スモールボアライフルとエアライフルを使用するには、どちらも講習等の手続きをして所持資格を得ることが必要です。

図面を見ると確かにSB棟の射場は、選手が射撃を行う「射座」と呼ばれる場所から標的まで50 m、AR棟の射場は射座から標的まで10 mになっています。現在は管理棟2階の会議室がビームライフル射場を兼ねて機能していますが、この部屋には電気設備工事で「ビームライフル及投光器用」のコンセントが5か所に配置されています。射撃場が建てられた時点でビームライフルに対応出来る環境が整えられていたことが分かります。

ビームライフルは「BR」と表記され、引き金を引くと光線が出る仕組みです。当たった光に反応して得点を計算する専用の標的とともに使います。銃の所持が難しい日本では、射撃の普及のためにビームライフルを取り入れてきました。ビームライフルに所持資格は必要ありません。

宮城県ライフル射撃場はスモールボアライフルとエアライフル、そしてビームライフルの使用も想定して新築工事が行われており、この射撃場でライフル射撃の種目は殆ど実施できるように造られています。

射撃場という特殊な施設のため、図面への書き込みにも珍しいものがあります。例えば射座から標的までの間の横断面図には想定される弾道が書き込まれ、地面の仕上げについての注意書きには「射場地面は跳弾を起すような石等は全て取除く事」という書き込みが

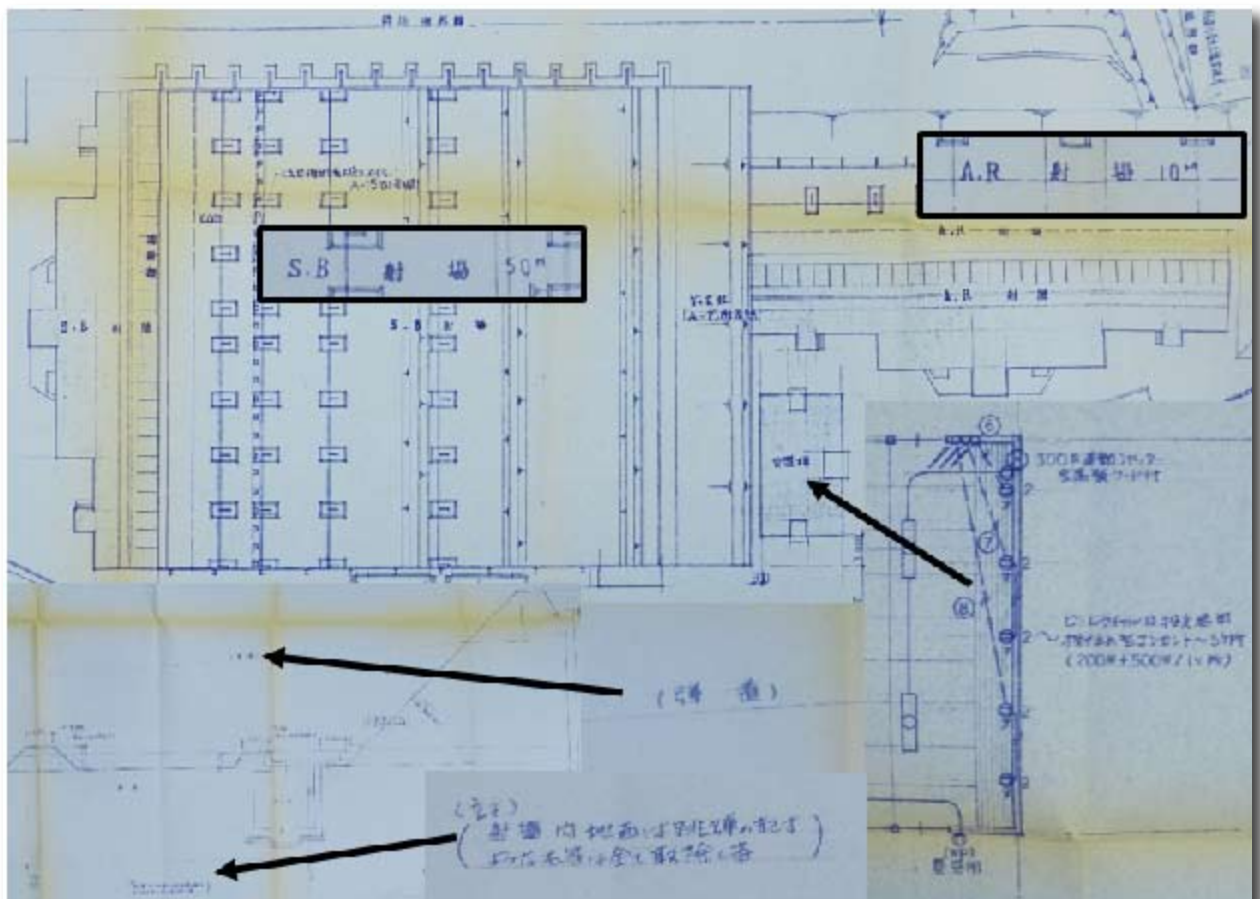


図1 【S57 - 254】【S57 - 259】より建築図面（部分）。一部を拡大して掲載しています。

見られます。跳弾とは、標的に当たらなかった弾が別な物体に当たって跳ね返ることで、予想外の方向へ弾が飛ぶ危険があります。

平成28年(2016)と平成30年(2018)には電子標的が導入されました。得点がリアルタイムでわかるようになり、ライフル競技がより円滑に実施できるようになりました。

◇射撃が得意な宮城県◇

宮城県はライフル射撃、クレー射撃ともに隠れた強豪県です。平成4年(1992)バルセロナオリンピックと平成8年(1996)アトランタオリンピックのクレー射撃スキートに伊藤総一郎選手、平成28年(2016)のリオデジャネイロオリンピックのライフル競技のうち、ラピッドファイアーピストルに秋山輝吉選手、そして2020東京オリンピックのクレー射撃トラップに大山重隆選手と、4大会に宮城県に縁のある射撃選手が出場しています。また、国民体育大会では毎年のように入賞者を出しています。

右の表は第1回大会から令和3年(2021)現在までの国民体育大会宮城県代表選手の射撃競技における団体・個人合わせた入賞数をまとめたものです。

国民体育大会では昭和26年(1951)の第6回大会から射撃種目が設けられています。宮城県はこれまでの76大会で射撃種目が開催された69回の大会のうち、なんと66回の大会で入賞者を出しています。ライフル射撃について言えば、69回大会中56回の大会で入賞しており、およそ8割の大会で宮城県代表の選手達が入賞しているのです。

他にもスキークロスカントリーとライフル射撃を行うバイアスロンという冬季競技でも宮城県は入賞者を出しています。

◇射撃が気になり始めた方へ◇

日本では銃の所持・使用が厳しく制限されるため、射撃は身近ではありません。射撃はメンタルスポーツと言われていきます。高い集中力や、迅速に気持ちを切り替える力を必要とし、それらを鍛えるスポーツです。過酷な運動を伴わないため、幅広い世代の方が活躍している生涯スポーツでもあります。

今回ご紹介した銃のうち、チームライフルは所持資格が不要ですので、興味が出たらすぐに体験することが出来ます。

宮城県の得意競技、挑戦してみたいはいかがでしょうか。

表1 国民体育大会における
宮城県代表射撃選手の入賞数

	西暦	ライフル	クレー
第1回	1946		
第2回	1947		
第3回	1948		
第4回	1949		
第5回	1950		
第6回	1951		1
第7回	1952		2
第8回	1953	1	3
第9回	1954	3	2
第10回	1955	1	
第11回	1956	2	1
第12回	1957	1	1
第13回	1958	1	
第14回	1959		1
第15回	1960	1	
第16回	1961	2	1
第17回	1962	1	
第18回	1963	2	
第19回	1964		2
第20回	1965		1
第21回	1966	3	
第22回	1967	2	
第23回	1968	1	
第24回	1969	1	3
第25回	1970	2	
第26回	1971	2	
第27回	1972	1	
第28回	1973		競技から 一時除外
第29回	1974	1	
第30回	1975		
第31回	1976	1	
第32回	1977		2
第33回	1978	3	
第34回	1979	1	
第35回	1980		
第36回	1981		1
第37回	1982	1	2
第38回	1983	1	
第39回	1984		1
第40回	1985		1
第41回	1986	2	1
第42回	1987		2
第43回	1988	2	2
第44回	1989	2	2
第45回	1990	3	3
第46回	1991	6	2
第47回	1992	3	3
第48回	1993	5	4
第49回	1994	2	
第50回	1995	3	2
第51回	1996	2	2
第52回	1997	8	1
第53回	1998	5	開催せず
第54回	1999	8	2
第55回	2000	7	2
第56回	2001	9	2
第57回	2002	8	2
第58回	2003	6	1
第59回	2004	5	2
第60回	2005	9	3
第61回	2006	8	4
第62回	2007	4	1
第63回	2008	4	
第64回	2009	4	1
第65回	2010	5	1
第66回	2011	5	1
第67回	2012	3	2
第68回	2013	5	1
第69回	2014	3	1
第70回	2015	6	
第71回	2016	2	
第72回	2017	3	1
第73回	2018	2	
第74回	2019	1	
第75回	2020		
第76回	2021		中止

知っ得！情報

◆ 企画展のご案内 ◆

今年は、東日本大震災から10年の節目の年です。震災によって、災害の教訓を伝承すること、過去の災害の歴史を学ぶことの意義が見直されました。

企画展では、明治以降の地震と津波に注目し、明治三陸地震・津波や昭和53年宮城県沖地震など4つの地震・津波に関する公文書を紹介します。なお、東日本大震災については、公文書館がどのような被害を受けたのか、などについて紹介します。



災害と公文書 —地震・津波と 宮城県—

《会期・会場》

令和3年12月4日(土)
～令和4年2月27日(日)
午前9時～午後5時
宮城県図書館2階展示室

《休館日》

月曜日、年末年始及び図書館の定める休館日

宮城県公文書館だより 第42号

令和3年(2021)10月30日発行

編集・発行 宮城県公文書館

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山一丁目1-1

電話 022(341)3231 Fax 022(341)3233

E-mail koubun@pref.miyagi.lg.jp

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/>

